

鳴子温泉郷に南三陸町、石巻市、東松島市などから950人が避難



新緑の美しい季節まだお客さんは少ない(鳴子駅前)



介護やメンタルのケアが心配(幸雲閣で)



約200人が避難している仙庄館、桜が満開

鳴子温泉郷に震災に遭われた方が避難しているという話を聞き、古川民主病院友の会では、「何か力になれることはないか」と、5月8日、同地区を訪れました。

対策本部の置かれている鳴子総合支所は日曜日で休みでしたが、友の会のTさんは、友の会会員さん、地元商店街の人、避難されている人からたくさんのお話を聞くことができました。

大崎市の遊佐辰雄市議は、鳴子のホテル・旅館には、南三陸町(740人)、石巻市、東松島市(115人)などから被災された人が約950人避難してきている。南三陸町と石巻市は大崎市を通して、東松島市は直接町に避難先として依頼してきたとの事でした。避難者の宿泊費用については1人一日5千円の予算で、仮設住宅が完成するまでの間、最長6ヶ月まで、国が負担するという事でした。

*駅前で食堂とおみやげ屋さんを営む“まるぜん”さんのご主人は、地震で電気が1週間点かなかった。水道は翌日には復旧、ガスはプロパンで大丈夫だったが、街は工事関係者以外観光客はおらずゴーストタウンのようだった。鳴子峡など新緑の美しい季節なので、観光客が戻って来てくれればと話していました。

*鳴子湯乃里“幸雲閣”さんでは、震災後全ての予約をキャンセルした。地震直後は工事関係者の方が泊まりに来られた。別館に被災されている6人が宿泊していますが、車椅子の方もおられ、資格がないので介助が難しいです。また、長期の滞在になるとメンタル面のケアが必要になってくるのではないかと、少し不安ですと、フロントのTさんが話してくれました。

真っ黒な津波が人も家も車も飲み込んでいった

中山平温泉月見の宿“仙庄館”さんには、約200人の避難者がいます。志津川のTさん(80)は、家が高台にあったけれどそれでも流されてしまった。足が悪いので押し車を使っていたが必死に逃げた。2日間濡れたままの衣類で過ごした。避難所では、菓子パンとおにぎり、漬物の食事だったと話してくれた。Sさん(72)も志津川で、近所の班で20名が津波で亡くなりました。山に打ち付ける津波は、破壊された住宅の木材や車を飲み込み真っ黒だった。4階建ての住宅に残っていた人、流される家や車に乗ったまま流された人を目の当たりにしたが戻ることはなかったと津波の凄まじさを話してくれました。

医療・介護は大崎市の保健師さんが巡回

鳴子温泉郷に避難されている人の医療・介護などのフォローは、大崎市の11人の保健師が巡回していて、医療が必要な場合は鳴子医院に紹介している。介護が必要な人には週3回ヘルパーさんが来てくれたりしているとの事でした。ただ、ホテルや旅館に泊まり避難所と比べ食事は格段によくなりましたが、義捐金などはまだおいておらずお金も衣類も全て流され、衣類、洗剤などの日用品の購入には不便を感じているとの事でした。

「移動なんでも相談会」開催

災対連・共同支援センター(宮城民医連も加盟)では、下記日程で健康相談会や炊き出しなどを行います。多くの職員のご参加を!

① 5月14日(土) 11:00~14:00

「石巻地域」で実施

② 5月21日(土) 11:00~14:00

「仙台市若林地域」で実施

③ 5月28日(土) 11:00~14:00

「仙南(名取)地域」で実施

■交通手段については別途手配します。

<お問合せ先>宮城民医連 022-265-2601

全国からの支援者数1963人

医師	335人
歯科医師	4人
薬剤師	119人
看護師	566人
技術系	169人
事務系	658人
他の職種	112人

合計 1963人

(松島直接支援除く)

2011年5月6日現在